

●臺灣洋畫展覽會

一、臺灣ア……美術洋畫鼓風教育的洋畫展覽會開催、

一、時日、四月十三、四日

一、會場、臺北國語學校、

一、出品、各地愛讀者中團體の會より願ふ、

一、油、水、大、小、なし、數、多少、差しつかへなし

一、額、有、無、にかゝらず(返送料當會持)

一、賣價、教育的なれば賣らず、但し、望む者有之時は後問合す、

一、會費なし

一、神戸發日便船、三月、十九、廿七日、四月、四

日等に間に合ふ様送附を希ふ、

送附宛——臺北、陸軍部官舎

小熊寅之助

○美術協會展覽會の發表

日本美術協會主催の第四十八回美術展覽會は愈々來る四月一日より五月十日迄同協會列品館に於て開催することに決定し此程該展覽會規則を發表せしが其要梗を摘録せば左の如し。

△本展覽會は新製の繪畫を陳列して公衆の觀覽に供し精密なる審査を爲して等差を判明ならしめ以て其進歩獎勵を計るを目

的とす。

△出品は圖樣及紙絹寸法等隨意たるべしと雖も其數は一名三點以内とす。

但屏風は一雙を一點とす。

△出品は鑑査委員に於て精密の鑑査を爲し其撰に上りたるものに限り陳列するものとす。

△出品は必ず三月十日より同廿五日迄に出品目錄を添へ本展覽會事務所へ送附あるべし。但歴史畫、眞景畫等は必要の解説書を添ふべし。

△出品は別に定むる所の審査規則に據り盡く之を審査し左の褒賞を贈與するものとす。

金牌 銀牌 銅牌 褒狀

△審査委員の出品に限り審査を加へず、本會の展覽會に於て金牌を受領せし者及帝室技藝員の出品は出品人の希望ある場合に限り審査を加へぬ。

△參考品として優逸なる古畫を陳列し觀覽に供するものとす。

尙ほ開會は發展の一方法として閉會後大阪市若くは名古屋に於て新畫の展覽會を開催する計畫ありと云ふ。

○金工競技會の開期 日本金工協會主催の金工競技會は來る三月開催する筈なりしも去る三日の臨時總會に於て豫定の期日を

延ばし來る五月を以て竹の臺陳列館に於て開催することに改定せりと尙ほ會場は一時日本美術協會の列品館を以て之に充つる説ありしも都合に依り竹の臺陳列館に変更せりと云ふ。

○美術鑑賞雅會 書畫骨董品に趣味を有する、あらゆる階級の同好者連四十名の組織なる美術鑑賞雅書の第四回例會は來る十一日午後一時より上野公園韻松亭に於て開催し各自携帶品を陳列して鑑賞をなすと云ふ。

○竹坡畫伯百幅畫會 尾竹竹坡氏が客臘大阪飯田吳服店美術部の依囑に應じて揮毫せる百幅(尺八、尺五)は表裝竣成せしに付來る十一日より十七日まで同店に陳列して公衆の縦覽を請ひ汎く賣約に應ずる由。

○東京勸業展覽會 本年の同展覽會は製作工業品に制限を加へ美術及美術工藝品を擴張したる結果美術に關係ある出品は前回に比し其數を増加すべき傾向あり殊に昨年不成績なりし彫金の如きは金工競技會延期の爲め意外に多數の出品を見るべく又本年は「書」の美術部に加へられたる一事にても會増を賑はすべき状態なりと云ふ。

○寫眞展覽會 東京寫眞研究會の展覽會は來る三月三日より廿日迄上野竹の臺陳列館に於て開催する筈なるが今回は會員奮つて多數の出品をなすのみならず會員外の出品少からず且つ「ツアイス」「イーストマン」「イルホード」「オートカイプ」諸會社よりの海外出品畫もありと云ふ。

○日本圖案會 同會にては來る廿五日常盤木俱樂部に於て發會を催ふす由なるが當日は目下募集中なる夏物八王子産織物に使用する「レットル」(縦八寸五分、横三寸六分、八王子産のお召飾用として貼)或は男女用高價なる縞絹織物の一反毎に裝付するもの)の審査を發表し且つ餘興として柴錦子、全美佐

子の歌澤振り(網上)、鶴賀加賀太夫の新内節(膝栗毛)等ありと因に右の懸賞圖案には一等廿五圓以下三等五十錢までの賞金を贈與する由にて締切期日は廿五日の正午迄なりと。

○健筆會展覽會 同展覽會は本年も開催することに決し來る五月廿日より六月十日迄美術協會列品館に於て開催する由なり。

### 美術界雜俎

△彫刻界の耆宿たる石川光明氏は豫て其好事家の需めに應じ加茂神社葵祭の行列人形を彫刻中なるが右は人物の大小四寸位にして精巧なる木彫として一昨年より今日まで既に百餘個の人物を彫刻せるも其總數は三百餘個に上り其の中には乘馬の人物少からず且つ諸種の什器等もあれば全く竣功する迄には尙ほ數年を要すべしと尙ほ氏の此彫刻に従事するや衣冠裝束等悉く故實に違はざらんことを期し古書に就て稽査するは勿論毎歲祭典舉行の際は態々京都に赴きて親しく調査する等苦心慘愴、専ら精力を熱注しつゝありと云へば竣成の上は同氏一代の大作なるのみならず明治彫刻界に紀念すべき作品たらんと云ふ△目下大阪に滞在中なる小室翠雲氏は本月中、又山岡米華氏は來月上旬何れも歸京する筈△益田棋岳氏の壬子畫會は來る十八日神田明神境内開化樓に於て開催△芝景川氏の第七回畫會は來る十七日牛込區通寺町求友亭に於て開催△前報せし小山雪耕氏の日本千勝畫會は來る四月三日上野公園常盤華壇に於いて發會を催すに決定せり△佐藤紫烟氏は過日ハ王子町に赴き同地大善寺の金地

六曲屏風に墨畫の老松を描きたりと△川合玉堂氏は目下北白川宮家の御用にて襖二十餘枝に梅花を揮毫中なりと云へるが右は連続せる大作にして頗る美事なるものと聞けり△田南岳嶂氏は一月以來普通の依頼畫を謝絶し専心寫生及び古畫の研究に従事しつゝあるが各展覽會には奮つて其作品を出す覺悟なりと△三越吳服店寫眞部にては例に依り懸賞を以て寫眞畫を募集しつゝあり圖題は「山と水」にて締切期限は三月二十日迄なるが賞金は一等五十圓、二等卅圓、三等十圓、四等五圓、五等二圓なり△國華俱樂部の本月修會は來る十七日開催する由委細は次號に報道すべし。

本社美術小品展覽會

本社にては今回社友諸君の深厚なる同情を得て本通信三百號紀念の爲め美術小品の展覽會を開催することに決定せり其規定の概要は左の如し。

一、本展覽會は明治四十五年三月一日より同月三日まで三日間上野公園精養軒に於て開催し汎く同好者の觀覽に供す。

一、本展覽會は社友諸君の新作に成る美術及び美術工藝品を出陳するものとす。

一、本展覽會の出品は悉皆賣約に應ず。

而して出品は繪畫(西洋畫を除く)に在つては尺五若くは尺三を主とし美術工藝品も之れに準じ普通展覽會に見るが如き大作無しと雖ども何れも作家諸君丹誠に成れるものなれば其趣味の豊富なる點に至つては本會の特色として竊かに誇らんとする所なり

り尙ほ其出品の内容等は逐次報道することとし爰には本會の舉を賛し特に出品を快諾せられたる作家諸君の芳名を紹介する事とせり(芳名いろは順)

池上	秀畝	池田	蕉園	今村	紫紅	伊藤	綾春
石川	精華	石川	光明	板谷	波山	六角	紫水
畑	仙齡	堀川	光山	保坂	光山	豐川	秀靜
豐川	光長	尾形	月耕	尾竹	越堂	尾竹	竹坡
尾竹	國觀	岡崎	雪聲	川合	玉堂	梶田	半古
川端	玉章	川端	玉雪	川端	茂章	楠木	清方
香川	勝廣	桂	光春	横山	大觀	吉田	芳明
高島	北海	高橋	廣湖	田中	賴章	高村	光雲
武石弘三郎	津端	道彦	塚田	秀鏡	根本	雪篷	
中倉	玉翠	邨田	丹陵	村瀨	玉田	海野	勝珉
野田	九浦	野口	駿尾	山内	多門	山岡	米華
山田	敬中	保間	素堂	山崎	朝雲	山本	瑞雲
松本	楓湖	益頭	峻南	松林	桂月	福井	江亭
船越	春民	小堀	鞆音	小坂	芝田	小室	翠雲
小林	吳嶠	寺崎	廣業	荒木	探令	荒木	十畝
赤塚	自得	佐竹	永陵	佐藤	紫烟	木村	武山
北野	恒富	由井彦太郎	結城	素明	宮内幸太郎		
宮川	香山	下村	觀山	島崎	柳塲	下村	清時
廣瀬	東敏	諸星	成章	森	鳳	聲	

右の外若干名あり確定の上更に報道すべし